

平成16年11月2日
水産庁

2004年度第二期北西太平洋鯨類捕獲調査（JARPN II）
沿岸域調査（釧路沖鯨類捕獲調査）の終了について

本年度の第二期北西太平洋鯨類捕獲調査（JARPN II）の沿岸域調査（釧路沖）が、10月31日に終了しましたので、その成果概要について報告します。

調査期間：9月13日～10月31日

調査実施主体：（独）水産総研センター遠洋水産研究所、（財）日本鯨類研究所

捕獲頭数：ミンククジラ59頭（サンプル数上限60頭）

主な発見鯨類：ミンククジラ、ツチクジラ、シャチ他

調査団：加藤秀弘遠洋水研鯨類生態研究室長以下14名

調査船を含む乗組員・事業員数は54名

- （1）ミンククジラの捕獲調査船による総発見数は151群156頭であった。分布は、一昨年に見られた沿岸の集中域が見られず、沖合（20～30海里付近）にかけて薄く広がっていた。これは、本年度においてはカタクチイワシ、サンマ等の主要餌生物の分布が薄く、ミンククジラも沿岸域への来遊が少なかったためであると推測される。
- （2）胃内容物は、9月はカタクチイワシが多く10月はサンマが中心であり、胃内容物組成は比較的シンプルであった。（一昨年は、スケトウダラ、スルメイカ、オキアミなどを主に捕食した個体も見られた。）
- （3）台風等の天候不良により調査が難航し調査日数が限られたものの、所期の調査目的は達成された。さらに、一昨年の調査と比較し著しく気象条件が異なる状況下で、ミンククジラ生態の年変動に関する情報が得られたと考えている。
- （4）今後も本海域及び春の三陸沖における調査研究を継続し、ミンククジラの摂餌回遊生態および、その捕食が漁業に与える影響の解明に向けて分析を進めていく予定である。これらの調査成果は来年の第57回国際捕鯨委員会（IWC）科学委員会に発表の予定となっている。

問合先：水産庁遠洋課捕鯨班 諸貫、長友、大部

代表:03(3502)8111 内線7242・7243

直通:03(3502)2443

<http://www.jfa.maff.go.jp/whale/indexjp.htm>